

飯田市立旭ヶ丘中学校 開催要項

研究テーマ

子どもたちが「できた！歌えた！」と実感し、表現を追究できる歌唱授業

- 1 期 日 令和6年11月19日（火）
- 2 会 場 飯田市立旭ヶ丘中学校
- 3 共同研究者 信州大学教授 齊藤 忠彦 先生
- 4 日 程
 - (1) 受 付（昇降口） 13：00～13：20
 - (2) 授業公開（第2音楽室） 13：30～14：20
 - ① 授業学級・授業者 3年4組・上村 亮
 - ② 題材名 「曲想を生かして表現豊かに歌おう。」（歌唱『帰れソレントへ』）
 - (3) 開会行事（第1集会室） 14：30～14：40
 - ① 主催者挨拶 信濃教育会研究調査部長 和田 敦
 - ② 諸連絡
 - (4) 授業研究会（第1集会室） 14：40～15：20
 - ① 研究説明 授業者 上村 亮
 - ② 授業者振り返り
 - ③ 質疑応答
 - ④ 全体協議
 - ⑤ 指導 信州大学教授 齊藤 忠彦 先生
 - (5) 講演会（第1集会室） 15：30～16：30
「これからの新しい時代の音楽教育に求められること」
信州大学教授 齊藤 忠彦 先生
 - (6) 閉会行事（第1集会室） 16：30～16：40
 - ① 会場校校長挨拶 飯田市立旭ヶ丘中学校長 大澤 忠史
 - ② 諸連絡

5 連絡

- (1) 湯茶等の飲み物、上履きをご持参ください。
- (2) 駐車場は体育館周辺及び前庭をご利用ください。

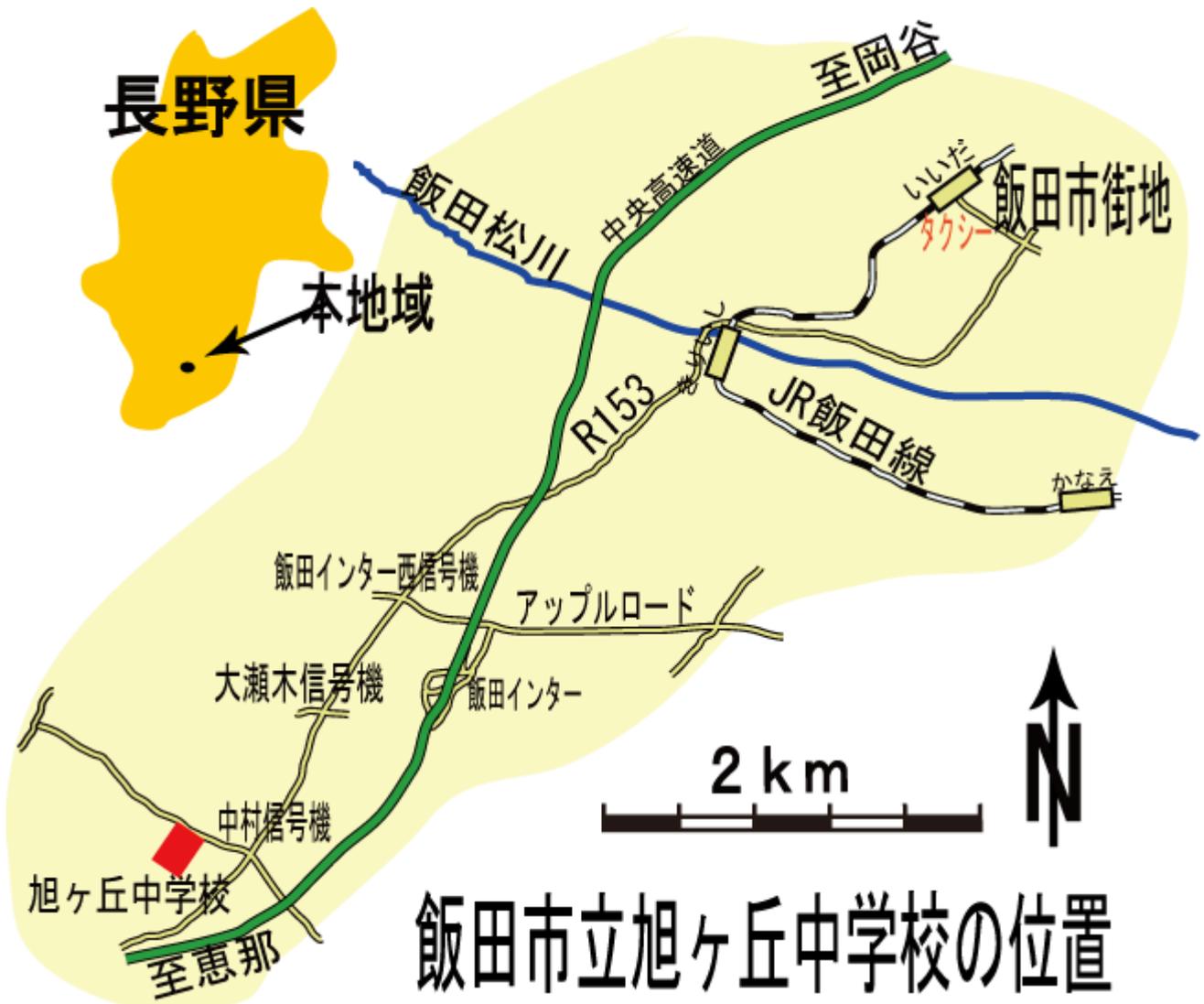
飯田市立旭ヶ丘中学校
担当 下平 浩之（教頭）
電話 0265-25-2027
Mail asahijh@ed.iidanet.jp

飯田市立旭ヶ丘中学校への交通案内

お車でお越しの方は下記の地図を参考にし、お出かけください。

経路

- ・中央道下り線をご利用の方は、飯田インターで降りてください。
- ・中央道上り線をご利用の方は、飯田山本インターで降りてください。
- ・飯田インター及び飯田山本インターからは約5分で到着いたします。



お気をつけてお越しください。お待ちしております。

1 研究テーマ

子どもたちが「できた！歌えた！」と実感し、表現を追究できる歌唱授業

2 テーマ設定の理由～昨年度の実践で見えた課題から～

昨年度から新型コロナウイルスによる音楽活動に対する制限が原則としてはなくなり、子どもたちが音楽活動に心ゆくままで取り組める環境が戻ってきた。しかしながら、4年間のコロナの影響は想像以上に大きく、ここまで歌えなくなってしまうものかと衝撃を受けた。一部の子どもたちからは「声の出し方がわからない。」「マスクを外して、口を大きく開けるのが恥ずかしい。」「歌わなくてもここまで過ごせたのだから、無理に歌わなくてもいいよ。」といった言葉も聞こえた。今の中学3年生は、小学校高学年でほとんど歌えなかった学年である。小学校での歌唱活動がいかに大切であるかを再認識するとともに、なんとかして、子どもたちに歌う楽しさや喜びを味わってほしい、そのために必要な「歌う技能」を高めていくことが、音楽科の使命であると思っている。

3年4組の子どもたちは、音楽の授業に前向きに取り組むことができる。2年次に学習した「サンタルチア」では、ナポリの船乗りが訪れた観光客を自分の船に誘うコマーシャルソングであることを知り、複数の異なる歌手の演奏を聴き比べることを通して、歌い手が自由に音楽表現できるカンツォーネの魅力を感じた。また、それぞれがナポリの船乗りとなり、自分だったらどのように誘いかけたいか、また、それをどのように音楽表現できるかを考えた。

○2人の歌手の歌い方は、観光客をどのように誘っている感じがするかな？理由もあわせて書こう

 <p>ホセ・カレーラス</p>	<p>誘い方 楽しい旅になるよー って大きな声で歌って いる。</p> <p>理由 声強く、大きな声 で歌っている。</p>	 <p>ルチアーノ・パヴァロッティ</p>	<p>誘い方 ゆったり景色を 楽しめろよーって 優しい声で歌って いる。</p> <p>理由 そのメロディも声は 小さいけど、それが てゆーたりしている。</p>
--	--	--	---

○あなたはナポリ船乗りです。ナポリに観光しに来た人に向けて、「私の船においでよ!」と、どのように誘いかけたいかな？また、その思いをどのように音楽で表せるかな？音楽のイメージを書こう



○2人のオペラ歌手の比較

対称的な歌い方を比較することで、同じ曲でも表現の仕方が様々であること、思いと音楽表現が結びついていることに気付かせた。

○音楽表現の見通しをもつ

自分だったらどんな風に伝えたいか、それを音楽でどう表現したらよいかを考えた。

3 研究内容

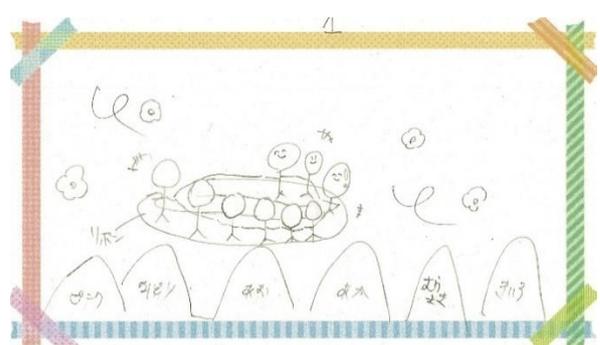
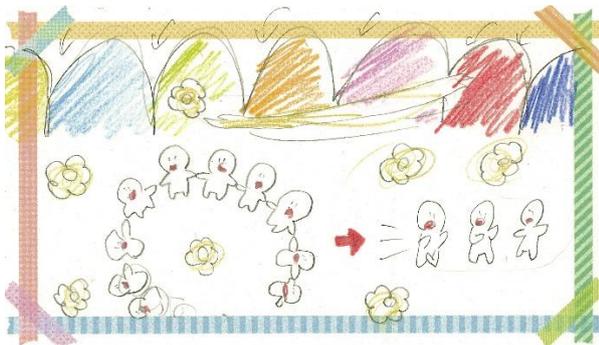
授業研究を進めるにあたり、4つの手立てを研究の柱として事前授業（3年歌唱「花の街」）を行った。

- (1) 子どもたちを惹きつける教材との出会い
- (2) 音楽要素の「見える化」の手立て
- (3) 「できた！歌えた！」と子どもたちに実感をもたせる手立て
- (4) 限られた時間の中で、歌唱表現に必要な技能を身に付ける手立て

(1) 子どもたちを惹きつける教材との出会い

～曲の背景を知り、作詞者の想いに触れ、歌詞からイメージをもつ～

「花の街」は、戦後日本を勇気づける目的で作られた曲である。詩人、江間章子は一面の瓦礫の中で、華やかな景色を彷彿とさせる詩を書いた。子どもたちは、戦後直後の日本の写真を見たのちに、1番の詩を読み、そこから思い浮かべた景色を絵に表した。



子どもたちは、作詞者と同じ目線に立って、歌詞を味わうことにより、文字から色彩豊かなイメージを膨らませた。歌詞の中に「人」や「子ども」という単語が一度も出てきていないのに、子どもが手を繋いで輪になっている景色をイメージしたことは興味深いと感じる。絵に表したことにより、歌詞を知るだけでなく、歌詞を深く捉え、作詞者に共感する姿に繋がった。

(2) 音楽要素の「見える化」の手立て

前時に音取りと歌詞、曲の背景について理解を深めた子どもたちは、曲想と歌詞から想起したイメージをもとに、この曲には、希望や復興への祈りが込められているのではないかと考え、「平和・復興への希望が伝わる『花の街』を歌う」ことを目指した。中でも、曲を聴いた人は、「輪になって輪になって」のところで一番希望を感じるのではないかと思い、この部分の音楽表現（強弱）を工夫することになった。音楽表現を工夫する際には、ただ大きくしたり、小さくしたりするのではなく、表現の根拠となる**歌手の思い**が必要だと考える。

そこで、「希望がもてる輪」は、それぞれどのくらいの大きさなのかを描かせ、子どもたちにイメージさせた。(図1)

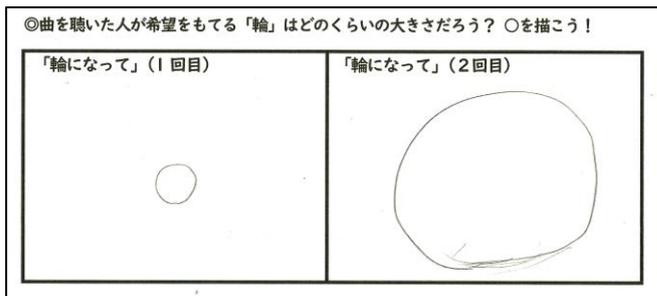


図1 表現したい思いをもつ



子どもたちは、2~3人のグループに分かれ、実際に歌い試しながら、自分の輪の大きさのイメージに合う強弱を「強弱メーター（1~10の数字）」で表した。

クレッシェンドの音量の幅は非常に曖昧である。数字で示すことによって、どのくらい大きくするのかを明確にイメージしながら歌う姿に繋がった。また、音楽が苦手な子どもも活動に取り組むことができた。

また、表したい「輪」の大きさをイメージすることで、「なんとなく」ではなく思いや根拠をもって、強弱表現を考えることができた。しかしながら、「かけていったよ」で2つめの輪の大きさを表現する子どもが多く、最初に描いた「輪」とのイメージ画とは少し離れてしまった。

(3) 「できた！歌えた！」と子どもたちに実感をもたせる手立て

子どもたちが「できた！歌えた！」と実感するためには、主観で振り返ることも大事だが、客観的に聴いてもらい、評価してもらうことも必要なのではないかと考えた。そこで子どもたちが互いに聴き合い、アドバイスし合えるようにした。

A生のワークシート

A生は最初「1→2」の強弱表現を思考し、歌い試していたが、聴いた仲間から「1と2の大きさが変わっていない」と助言されたことによって、「1→4」と表現を変えた。

客観的に聴いてもらい、アドバイスをももらうことで、きちんと歌い表せる音楽表現に辿り着くことができた。また、姿勢を指摘されたことで、意識して歌う姿があった。



友達に聴いてもらいアドバイスを求める姿



別のグループからもアドバイスをもらう姿

生徒の振り返りより

◎平和・復興への「希望」が伝わる表現で歌えるようになったかな？ A、B、Cで自己評価しよう！

A) B C →

そう判断した理由 *みんなからもらったアドバイスをみて自分の直ぐところばかり直して、声を高くのはして表現を自分なりに豊かに歌っていくことができた。*

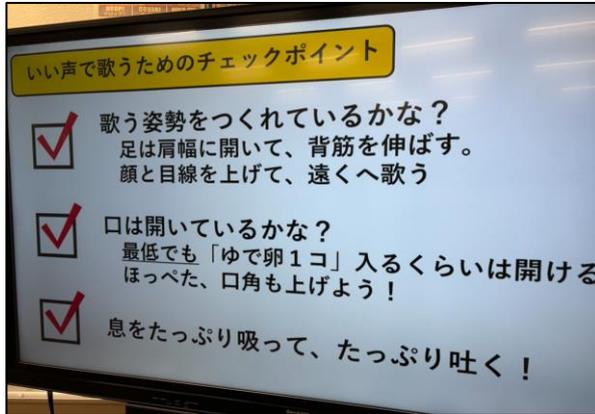
◎振り返り

今回の学習は文化で、アドバイスをもらいながら直し、希望が伝わるような表現をしていくことができたのでよかった。自分も強弱がわかる（花の径）が、おもしろいと思いました。

この生徒は歌が好きな生徒であるが、自信をもてずにいた。仲間と一緒に歌い、アドバイスをもらえたことで、自信をもって「表現できた」と語る姿に繋がった。

(4) 限られた時間の中で、歌唱表現に必要な技能を身に付ける手立て

子どもたちが音楽活動に取り組む中で、教師が行う発声指導以外にも、子どもたちが自分たちで技能を高めていく手立てとして、姿勢や口の開け方、呼吸などといった、簡単に意識ができ、視覚的にもわかりやすい発声のポイントを電子黒板に示し、個人追究に入った。



子どもたちが、自分自身で歌唱を上達させるヒントを各場面で得ながら、歌唱活動に取り組むことができた。また、これを見ながら仲間へアドバイスするなど、音楽が苦手、あるいは、歌唱が苦手な生徒も仲間へアドバイスを送ることができた。

一方で、姿勢や口の開き方といった、発声において初歩的な最低限の内容しか扱うことができず、「歌声」を伸ばすには不十分であった。子どもの発声を伸ばすには、子どもの必要感や、手本となる「良い歌声」の提示、最終的には教員の支援が必要であり、活動の中で適宜発声指導を行うことが必要であると感じた。

4 研究大会当日に向けて

事前授業を通して、子どもが「できた！歌えた！」と実感をもつためには、自己評価に加え、他者からの評価が有用であると感じた。また、子どもたち同士で互いに歌声を聴き合うことで、一人ひとりの歌声を認め、尊重する態度が育ち、仲間からアドバイスをもらうことで、自分の歌声を認め、自信をもつことにも繋がるのではないかと考えた。

今回、共同研究者である齊藤忠彦先生からは、タブレットPCを用いた個別最適化の学習に向けたご助言をいただいた。タブレットPCで自分の歌声を録音できる環境をつくり、自分自身の歌声を聴くことを通して、「できた！歌えた！」と実感することにも挑戦してみたいと思う。

3年4組の生徒は、昨年の「サンタルチア」の学習では、自分の思いを表す音楽表現を思考するところで終わってしまった。しかし、今年は同じカンツォーネである「帰れソレント」の題材を使って、子どもたちが音楽表現をことん追究し、歌唱の技能面を伸ばしながら、「自分の思いを伝えるカンツォーネが歌えた」と納得できる授業を目指したい。

音楽科学習指導案

研究テーマ

子どもたちが「できた！歌えた！」と実感し、思いをもって表現を追究できる歌唱授業の在り方

- ・ 期日 令和6年11月19日（火）第5校時 13:30～14:20
- ・ 授業学級 3年4組（男子18名 女子16名）
- ・ 授業会場 第2音楽室
- ・ 授業者 上村 亮
- ・ 指導者 信州大学 教授 齊藤 忠彦 先生

1 題材名

曲想を生かして表現豊かに歌おう。（3年 歌唱『帰れソレントへ』）

2 題材の目標

- (1) カンツォーネの特徴や曲想と音楽の構造、歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。（知識及び技能）
- (2) 速度、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。（思考力、判断力、表現力等）
- (3) カンツォーネ特有の曲想の変化を感じ取り、自身の表したい思いと音楽表現との繋がりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の活動に取り組むことができる。（学びに向かう力、人間性等）

3 題材設定の理由

3年4組の生徒たちは音楽の授業に明るく前向きに取り組むことができる。2年次の「サンタルチア」の学習では、カンツォーネ特有の音楽のゆれや強弱変化を感じ取り、歌い手が自由に音楽表現をすることができるカンツォーネの魅力に触れ、自分の思いを表すための音楽表現を考えることができた。しかしながら、自分では表現できない無理な音楽表現を考えてしまう生徒や、歌ってみても本当に歌い表せているのか実感がもてず、深く追究ができない姿があった。

本題材は、カンツォーネを代表する一曲である。恋人と離れてしまった悲しみや、自分の元に戻ってきてほしいという思いが、同主調の転調や叙情的なメロディによって表現されている。また、強弱や速度、リズムの表現が幾通りにも工夫ができ、歌い手の思いや個性を自由に表現できる曲で、まさに「カンツォーネらしく」歌える曲である。

本題材の歌唱を通して、生徒がカンツォーネだからこそできる自由な音楽表現を追究し、歌い試すことで、一人ひとりが自身の歌唱表現と向き合い、「思い」を音楽によって表現できることに気付かせたい。加えて、クラスの仲間と互いに聴き合いアドバイスをもらったり、自分の歌声を客観的に聴いてみたりすることを通して、自身の歌唱を振り返りながら、歌唱表現に必要な技能を身に付けさせたい。

また、このような経験から生徒が、今後の音楽活動においても、「思い」を伝えるために音楽表現を工夫しようとする姿や、ただ歌うだけでなく、演奏の良し悪しを判断しながら、表現を追究する姿になることを願い、本題材を設定した。

4 学習指導要領の内容との関連

「A 表現」(1)歌唱の事項ア, イ(ア)(イ), ウ(ア)

〔共通事項〕 音楽を形づくっている要素：強弱 速度

用語や記号など：rit. フェルマータ

5 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	<p>知 カンツォーネの特徴や曲想と音楽の構造、歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。</p> <p>技 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱している。</p>	<p>速度、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)</p>	<p>カンツォーネ特有の曲想の変化を感じ取り、自身の表したい思いと音楽表現との繋がりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。(学びに向かう力、人間性等)</p>
1時	○(知識) 〈観察、ワークシート〉		
2時		○ 〈観察、ワークシート〉	
3時	○(技能) 〈観察〉		○ 〈観察、ワークシート〉

◎

参考音源を聴く

どんな感じがするかな？

声が響いていて、ビブラートがすごい 暗い音楽から明るくなった 巻き舌があるからイタリア語だ

イタリア語の歌、去年やったよね？覚えているかな？

サンタルチアだ！！ 1人で歌うのは緊張したけど楽しかったな

サンタルチアのような歌をなんていうんだっけ？音楽はどのような特徴があるんだっけ？

テンポ(速度)を揺らして歌うのがカンツォーネの特徴だったな
自由に歌えるのがカンツォーネの魅力だったな

◎

曲の内容を紹介し、2種類の「帰れソレント」を聴き比べる

同じ曲なのに歌い方や強弱が全然違うな。

カンツォーネは自由に歌っていいんだな。

カンツォーネの特徴が確かに表現されていたね、歌い方は一緒だった？

それぞれの歌い方が全然違って、伝えたいことが違うように感じるぞ。

第一時

学習問題：自分の思いが伝わるカンツォーネにするためにはどう歌えばいいだろう？

カンツォーネを歌うために今日は何をしたらいいかな？

音源を聴きまくる。音取りをする。 オペラ歌手みたいな声で歌う 歌詞を味わう

学習課題：音取りをして、「帰れソレント」を歌えるようにしましょう。

【振り返り】帰れソレントは、カンツォーネの1曲であり、別れて、遠く離れてしまった愛する人に、美しいソレントの風景を伝え、

自分の元へ帰ってきて欲しいと歌った失恋ソングだと分かった。最初は音取りが難しかったけど、何度も歌っているうちに、旋律を覚え、だんだん歌えるようになった。

◎

再度、「帰れソレントへ」の参考音源を聴く

強弱をはっきりと表現できていないから今の歌い方はカンツォーネとは言えないな。

みんなの歌と比べてどう？思いが伝わるカンツォーネを歌えた？

音取りで精一杯だったから、伝えたい思いを考えて、表現を工夫してみたいな。

カンツォーネの特徴、歌詞の内容を復習し、一度歌う。

この曲は、恋人と別れた悲しみを歌った曲だったな。

◎

カレラースとグリゴロの「帰れソレントへ」の音源を聴き比べる

同じ曲なのに全然、歌い方が違うな

カレラースは、強く歌ってみて嘆いているように感じた。

2人の歌手の歌い方からは、恋人へ向けたどんなメッセージを感じるかな？

グリゴロは、小さく歌うことで寂しさを表現していると感じた。

もう会えない恋人への想いをどう伝えたい？またそれを音楽でどのように表現できるかな？

悲しみがダイレクトに伝わるように最後は大きく歌いたい。

でも、ひとりで歌うのは不安だな 私のオリジナルの表現を考えたいな。

願いが叶わない感じを小さい音でささやくように歌いたいな。

学習課題：個人や友達、先生と繰り返し歌ったり、聴き合ったりすることを通して、恋人へ思いを伝える強弱、速度表現を見つけよう。

教師の考えた表現例を黒板に提示し、教師が範唱する

これならできそうだな！ワークシートの書き方が分かったな

歌い試しながら、表現を見つけてみよう

歌ってみて、小さくする部分も必要だと思ったから、最後はデクレッシェンドしてみようかな

「帰ってきてほしい」と切実に伝えるために、最後はとても大きく歌いたいな

〇〇さんはこんな表現を考えただけど、どう？(生徒の考えを電子黒板に写し、共有してみんなで歌う)

〇〇さんの表現いいな、自分と違っておもしろいな

【振り返り】私は「どうして俺の元から離れてしまったんだ！」という強い思いを表現するために、「かえれ〜きみ〜」をフォルテで歌って、「ふるさとのまち」は美しい景色が思い浮かぶように滑らかに歌いたかった。最後は、大きな声で、一音一音強調しながら歌うと同時にデクレッシェンドして悲しみを表現したい。

前回、見つけた表現で一度歌ってみよう！

自分の表現を思い出せたな。ちゃんと表現できているか不安だな。

今の歌い方どう？自分の考えた表現で歌えている？

客観的に聴いてみないとわからないな。 仲間に聴いてもらってアドバイスを欲しいな

学習課題：友達と聴き合いアドバイスをし合ったり、タブレットで録音して聴いたり、参考音源や先生からのアドバイスを参考にしたりすることを通して、自分の思いが伝わるカンツォーネを歌おう。

タブレットへの録音方法、友へのアドバイスの方法をレクチャーして活動を開始する

自分では「帰ってきて」と強く訴えかけるように歌っているつもりだったけど、聴いた人からは、優しく伝える感じがすると言われたから、もっとフォルテで歌わないといけないんだな

フェルマータはもっと伸ばした方が自分の思いが伝わるな

よい声で歌うために、まずは姿勢を意識してみようかな

一人だと不安だけど、自分の表現を友だちと一緒に歌ってくれたら、歌えたな。 録音した自分の歌声を聴いたら、なんかいい感じで歌えているな

【振り返り】最初は、ただなんとなく歌っていたけど、思いを表現するための強弱や長さを考えたが、友だちに聴いてもらい、ちゃんと歌い表せていることがわかったから自信がもてた。姿勢や息の流れを意識したら前よりも声が出るようになって、自分の歌声で音楽を表現することの楽しさを感じた。カンツォーネの特徴である強弱を自由に表現し、音を伸ばすことで、二度と会えない恋人に帰ってきて欲しいというメッセージが込めて歌うことができた。

第二時

第三時(全時)

7 本時案

(1) 題材名 「曲想を生かして表現豊かに歌おう。」(3年 歌唱『帰れソレントへ』)

(2) 主 眼

カンツォーネの特徴と曲の内容を知り、遠く離れた恋人へ「帰ってきてほしい」と思いを伝えるための音楽表現を考えた生徒が、実際に自分の考えた音楽表現を歌い表す場面で、友達と聴き合いアドバイスをし合ったり、タブレットで録音して聴いたり、参考音源や先生からの助言を参考にしたりすることを通して、自分の思いが伝わるカンツォーネを歌うことができる。

(3) 本時の位置 (全3時間中 第3時)

前時：個人や友達と歌い試しながら、遠く離れた恋人に「帰ってきてほしい」と思いを伝えるための強弱、速度表現を考えた。

(4) 展 開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導・援助 評価	時間	備考
導 入	1 前時を振り返り、本時の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・「帰ってきて」と強く語りかけるように歌うんだっとな。 ・自分では、歌えているつもりだけど、聴く人にも伝わるかは自信がないな。 ・誰かに聴いてもらい、判断してもらえたら、「表現できた」と自信がもてそうだな。 ・タブレットで録音してみたいな。 ・自分の表現で歌うためには、発声を伸ばすことも必要だな。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇前回、思いを伝えるために考えた音楽表現を思い出しながら、一度歌う。 ◇自分の考えた音楽表現で歌えているか問いかける。 ◇生徒の発言から、友達からアドバイスをもらったり、客観的に自分の演奏を聴いたりすることで、実際に歌い表せているのかを判断できることに気付かせる。 ◇自分の思いを伝えるために、発声にも意識をするよう促す。 	10	楽譜 ワークシート
	学習課題：友達と聴き合いアドバイスをし合ったり、タブレットで録音して聴いたり、参考音源や先生からの助言を参考にしたりすることを通して、自分の思いが伝わるカンツォーネを歌おう。				
展 開	2 自分が考えた音楽表現で歌えるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏を聴いてもらったら、自分の伝えたい思いとは違う感じに伝わってしまった。強弱をもう少しダイナミックに表現しないとイケないな。 ・自分の歌声を録音して聴いてみると、イメージしてたのと違うな。 ・何回も歌っているうちに、だんだん表現できるようになってきたな。 ・歌う時の姿勢が悪かったな。足を肩幅に開いて、背筋を伸ばして、遠くを見る意識で歌おう。 ・なかなか思うように声が出なかったけど、先生からアドバイスをもらったら歌声を出しやすくなった。 ・参考音源を聴いてみたら、歌い方がイメージできたな。音源に合わせて歌ってみようかな。 ・一人だと不安だけど、仲間にも手伝ってもらって一緒に歌ってもらったら、少し歌えたぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇友達に演奏を聴いてもらい、自分の伝えたい思いが伝わったかどうかアドバイスをもらう。 ◇別室にあるタブレットで自分の演奏を録音し、客観的に聴いてみるよう促す。 ◇自分の演奏に納得するまで、繰り返し歌い試すよう促す。 ◇電子黒板に示した「いい声で歌うポイント」を見て歌ったり、友に助言したりするよう促す。 ◇自分の歌唱表現に納得できない生徒には、発声のアドバイスを適宜行う。 ◇歌うことに消極的な生徒には、参考音源を聴いて、演奏のヒントを得るよう促す。 ◇一人で歌うことが難しい生徒は、仲間に手伝ってもらい、ペアで歌ってみるよう促す。 	30	タブレット PC 電子黒板 CD プレイヤー
	3 本時の学習を振り返り、まとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に聴いてもらったら、伝えたい思いが伝わったと言ってもらえて自信がでた。自分が納得する演奏をすることができた。 ・「帰ってきて」と強く訴えかけるように、フォルテでたっぷりと歌い、カンツォーネらしく歌えた。 ・一人で歌うことは、最初は緊張したけど、自分の表現に集中して、歌うことができた。客観的な視点をもって演奏することが大事だと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇自分のカンツォーネを歌うことができたか自己評価する。 ◇本時の振り返りと次にどう繋げていきたいかを記入するよう促す。 ◇振り返りカードの記述を取り上げ、単元のまとめを行う。 	10	振り返りカード
終 末			<p>◎技 発声の技能を身に付け、自分の思いが伝わる歌唱表現ができる。 (知識・技能)</p>		